

目指す学校像	わくわく・いきいき・どきどき、「みんなの瞳が光ってる」学校
--------	-------------------------------

重点目標	1 主体的に学び合い、誰もが成長できる学校 2 安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校 3 地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校 4 指導力の向上を目指して、学び続ける学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価		学 校 自 己 評 価	
年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標		年 度 目 標	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会による評価	
								実施日令和7年2月3日	
								学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べて若干低い結果である。 ○与えられた課題はそつなく取り組むが、発展的内容や主体的な活動につながらない。 〈課題〉 ○低学年での1人1台端末の積極的な活用や全学年を通したより効果的なICT機器の活用が課題である。 ○自己採点等の学習の結果を自らの学習へと生かし、調整しながら主体的な学びへつなげていくことが課題である。 ○全教職員で児童の情報を共有し、児童の実態に即した学習活動を展開することが課題である。	・指導方法の工夫と主体的な学びによる確かな学力の向上 ・主体的に学び合い、誰もが成長できる学校	①国語、算数を中心に、朝学習に活用を図る時間を教育課程として組み込み、スタディサプリ、ドリルパークなどで苦手な分野に取り組む。 ②全国学力・学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。 ③全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング研修を行い、全教員で本校の現状を把握し、学校全体で児童の学力向上を図る。	①国語、算数について、全児童に対して学習の取組状況を把握し、目標をもって学習できるようにできたか。 ②児童が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向け行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果や学力向上カウンセリング研修を踏まえ、授業改善の視点、手立てを共有することができたか。また、学校評価において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①1人1台端末を活用し、ドリルパークやムーブノート、スタディサプリの活用を図った。 ②児童が端末を活用し、自己採点を行い、自らの学習状況をつかむことができた。 ③学力向上カウンセリング研修を実施し、全教職員で本校の現状を把握するとともに、問題の傾向を知ることができた。また、学校評価「よく学ぶ子」の項目において、児童、保護者、教職員共に肯定的な回答が児童「忘れ物77%」保護者「家庭学習の量と質76%」以外、80%以上となった。	A	①1人1台端末の積極的な活用や、より効果的な活用を図る。 ②児童が自己採点を行い、その結果を自らの学習へと生かしていけるよう支援する。 ③全教職員で学力向上カウンセリング研修を実施し指導に生かす。また、忘れ物については、学級指導とともに生徒指導でも意識向上の取り組みを行う。家庭学習の量と質については、各学年で児童の実態に沿っているか検討を行う。	・タブレットを効果的に使い、紙とデジタルの良いところを生かした学習が望ましい。 ・日々新しい発見や体験活動での気づきがあるようで、楽しく学んでいる。 ・外国籍の児童への指導もきちんとしてきている。 ・授業中、子どもたちが生き生きしている。 ・児童は勉強も運動、遊びに一生懸命である。	
2	〈現状〉 ○学校評価「心ゆたかな子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が教職員、児童70%以上、保護者80%以上であった。 ○学校評価「安全に気を付けて生活できた」の児童の肯定的な回答が、94%、「安全な環境を整えている」の保護者の肯定的な回答は88%であった。 ○施設・設備の不具合が原因のけが1件、救急車要請1件、医療機関受診27件であった。 〈課題〉 ○学校評価の児童「進んで自分の意見を言う」の肯定的な回答が78%であり、自信が持てない児童が22%いる。 ○安全な廊下歩行への意識が低い等、自分で考え安全な行動をとることができない児童が多いことが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな生徒指導、教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・安全・安心と美しい環境で、心が潤う学校	①情報端末(Forms)を活用した児童アンケートの実施をはじめとして、一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②生徒指導、教育相談に係る校内委員会で児童の情報交換を行い、児童の状況を細やかに把握し、Sola らむの活用等、組織的に支援相談を行う。	①学校評価に係るアンケート(教職員)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケート(児童、保護者)において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①学校評価「心ゆたかな子」の項目は、児童「自分の意見75%」保護者「思いやり79%」教職員「道徳、特活の目標78%」以外、肯定的な回答が児童、保護者、教職員で80%以上であった。 ②学校評価「たくましい子」の項目は、5つの項目すべてで肯定的な回答が児童、保護者、教職員80%以上であった。	A	①児童が「心豊かに生活している」と思っている現状を肯定的に受け止めながら、引き続き生徒指導、教育相談体制の充実を図る。 ②組織的な生徒指導、教育相談対応を心がけ、教職員の共通理解を図り、児童、保護者に寄り添った対応に努める。	・広い校庭でのびのびと活動している。土俵も活用できるとよい。 ・児童は元気に通学している。給食の評価も高いので、今後も期待している。 ・体育館の横のトイレの清掃をしっかりとしてほしい。 ・昇降口前通路が凹凸がある。 ・児童の挨拶はほぼできている。 ・樹木の手入れ等の環境整備もよくできている。 ・不審者対応訓練等、継続してほしい。教員のホイッスル携帯もよい。	
3	〈現状〉 ○学校評価「家庭・地域との連携」について、3つの項目すべてで教職員、保護者、学校運営協議会委員の3者で肯定的な回答が80%以上であった。 ○学校教育目標達成度アンケートにおいて「地域との連携」の肯定的な回答の割合が90%であった。 〈課題〉 ○学校評価に係るアンケート結果を教職員で十分に共有し、充実を図ることが課題である。 ○日々のWebページ更新と共に、教職員の役割を分担し、活用を推進することが課題である。 ○地域の見守り防犯ボランティアの方々の高齢化に伴う参加人数の減少が課題である。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動公開 ・地域の力で、子どもがすくすくと育つ学校	①Webページを更新し、目指す児童の姿等を広く、家庭、地域と共有する。 ②学校保健委員会や学校行事を保護者、地域の方がオンラインを含め参観できるようにし、学校の教育活動に対する関心を高める。	①学校評価に関するアンケート(教職員)で「家庭や地域の願いや期待の具現化を図っている」と回答する割合(肯定的)が80%以上となったか。 ②上記のアンケートで「Webページ等による教育活動の適切な提供」に回答する割合が80%以上となったか。	①学校評価「家庭や地域の願いや期待の具現化」において、教職員の肯定的な回答が81%であった。 ②学校評価「Webページ等による情報の適切な提供」において、教職員の肯定的な回答が88%、保護者が84%であり、家庭、地域と共有できた。	A	①児童の安全への意識向上と、防犯ボランティアの参加人数減少への対策を兼ねた、学校・家庭・地域が連携した下校指導を継続する。 ②Webページによる提供を引き続き実施するとともに、役割を分担し、計画的な更新等に取り組む。	・地域とのつながりでは自治活動への参加が少なくなってきた。 ・地域の方はとても良い挨拶を返してくれる。保護者は元気がない。 ・保護者が行事、安全補助にもう少し参加してほしい。 ・地域とのつながりや感謝等の気持ちを持つ指導もよくできている。 ・もう少し全体の繋がりを持つのが望ましい。まずは挨拶。 ・登下校時に地域、保護者はかなり協力的である。	
4	〈現状〉 ○学校評価アンケート児童と保護者「授業に関する項目」で肯定的な回答が80%以上だった。 ○「よい授業」アンケート「ICTの活用」が78%だった。 〈課題〉 ○昨年度までの学校課題研修の成果で、特別活動では自分の考えをもち、学び合う児童が多くなったが、他教科で自信をもって取り組む児童が少なく、課題がある。 ○教職員間での取組の差を含め、エバンジェリストを中心としたICTの効果的な活用方法が求められる。	・指導力の向上を目指して学び続ける学校	①毎週木曜日の研修や学期1回の研究授業を通して研究を推進する。 ②エバンジェリストを中心に、全ての教員がICTについて学ぶ研修を毎月や長期休業中に実施する。 ③一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を自己評価面談時に設定し、目標に向けた授業を年間1回以上公開する。 ④「学びの指標」との関連を図りながら、ICT機器の授業における効果的な活用を図るとともに、児童の積極的な活用を推進する。	①全ての教員が学校課題研修への取組を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用した学習活動を行ったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、学校評価アンケート「授業に関する項目」で80%以上となったか。 ③「学びの指標」において、関連する項目の肯定的な回答の割合が80%以上となったか。	①学校評価アンケート(児童)「よく学ぶ」に関して、「一生懸命学習に取り組む92%」「勉強がよくわかる90%」において肯定的な回答があった。 ②「学びの指標」アンケート「ICT」に関する項目は77%であった。 ③学校評価アンケート「授業に関する項目」(教職員)は9項目で肯定的な回答が80%以上となった。(90%以上6項目) ④「学びの指標」において、「主体的:81%」「探求的:80%」「基礎:84%」と肯定的な回答の割合が80%以上となった。	A	①学校課題研修は研究協議会を1回、公開授業を6回実施し、研修の充実を図った。次年度への円滑な接続を図る。 ②ICTの効果的な活用について研修を進めたが、より良い活用について更なる取組が必要である。 ③自己評価面談をより効果的に活用し、年間を通して自身の目標を意識できるようにする。 ④ICT機器を活用した主体的、協働的な学びの数値が低いいため、次年度も引き続き研修に努める。	・音楽会の保護者、地域への公開を検討してほしい。 ・教員は、児童へ愛情をもって接している。遅くまでの業務なので、教員自身の生活や体調も気を付けてほしい。 ・教職員は一生懸命児童のために頑張っている。児童と一緒に活動、指導している姿に感動した。 ・下校時のマナー(砂利を散らばせない)等の指導が必要。 ・いじめ防止、なかよし週間、ふわふわほめほめ言葉等、学年に関係なく児童主体でやっておりよい。	

